

緊急号

庄内総合支庁 農業技術普及課

Tel. 0235-64-2103

ゆっくり丁寧な耕起で作土深を確保！

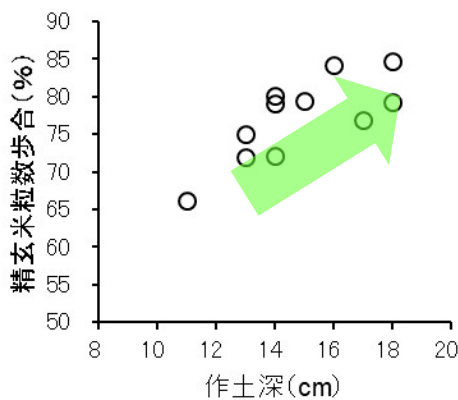
作土深の確保は気候変動対策の要（かなめ）です。

◎耕起始めには必ず作土深を確認しましょう。

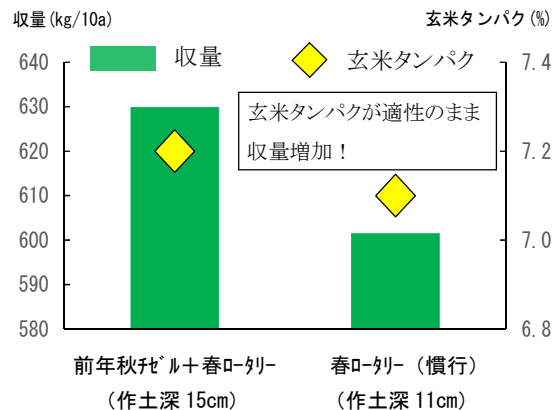
◎作業スピードを調整し、ゆっくり・丁寧に耕起しましょう。

作土深の確保による効果

作土の深さは水稻の品質・収量に大きく影響します（図1, 2）。作土深が浅いと水稻の根が上部に集中し登熟期の高温や乾燥による影響を強く受け、白未熟粒等の発生による品質低下を招きます。登熟期の高温に負けない稲を育てるため 15cm以上の作土深を確保しましょう。



<図1> 作土深と精玄米粒数歩合の関係
(R4 鶴岡田川地域「つや姫」11圃場で調査)



<図2> 作土深と収量および玄米タンパク
(R4 チゼルプラウ実証圃の事例)

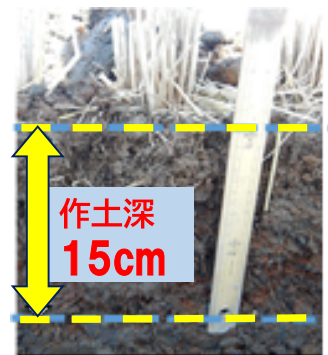
15cm以上の作土深を確保するために

1 耕起始めには必ず作土深を確認しましょう

庄内地域の水田の作土深は年々浅くなっています。目標とする15cmの作土深を確保するため、勘に頼らず、耕起始めには必ず作土深を確認しましょう。

2 耕起作業はゆっくり、丁寧に行いましょう

耕起作業のスピードが早く作土深が浅くなっている例も見られます。ゆっくり・丁寧に耕起で、目標とする作土深15cmを確保しましょう。



春作業始動！本田・農道・作業小屋等での農作業事故を防ぎましょう！